

# 図書館だより SAKUらいぶ

作新学院大学

令和4年1月号

作新学院大学女子短期大学部 図書館



## ☆内 容☆

- ・令和4年が始まりました
- ～学生さんたちの「伸びしろ」を後押しできる図書館に～
- ・図書館で高等学校の先生方の研修が行われました
- ・あなたのページ
- ・らいぶ Question
- ・開館カレンダー

## 令和4年が始まりました

～学生さんたちの「伸びしろ」を後押しできる図書館に～

新しい年、令和4年が始まりました。今年は「寅年」です。

「寅」という字には、「まっすぐに伸ばす」とか「引っ張る」という意味があります。この寅という字は、「両手で弓に矢をつがえて引っ張る」象形文字からできたとされています。中国から伝わった「十二支」は、もともと植物が循環する様子を表していて、その年の特徴につながるとそうです。「子年」に新しい命が種の中で芽生え始め、「丑年」には種の中で育ちますがまだ伸びることができません。

「寅年」は、春が来て根や茎が生じる時期で、植物が伸び始める状態のころだとされています。そうなのです。寅年は「伸びしろ」が期待できる年にあたるのです。



今年の初めは、例年よりも気温が低い日が多く、寒さが身に染みる感じが強いですが、実はよく見てみると、写真のように土の中から「福寿草」や「スイセン」の芽吹きが見られるのです。これらの植物は、この後ぐんぐん成長していきます。「伸びしろ」が期待できるって、とても素敵なことですね。

図書館では、たくさんの学生さんたちが自主的な学修に励んでいます。自分の課題をしっかりと見つめ、その解決に向けて努力を重ねている学生さんたちの姿、とても素敵だと思います。寅年の今年、本学の学生さんたちの資質や能力がさらに高まるよう期待するとともに、その「伸びしろ」を少しでも後押しできるよう図書館運営にあたっていきたくいと、職員一同気を引き締めているところです。

## 図書館で高等学校の先生方の研修が行われました

2021年12月1日に、「栃木県高等学校教育研究会図書館部会芳賀地区研修会」が行われ、芳賀地区の各高等学校図書館担当や司書の先生が、本学図書館にいらっしやいました。

「大学図書館のシステムについて知ることにより、『教育活動と図書館の連携』のより一層の推進を実践する」という研修目的でいらっしやった先生方12名に対して、図書館長挨拶、図書課長講話及び質疑応答、館内施設案内等を実施しました。

講話においては、主に以下の内容をお伝えしました。

- 大学図書館と学校図書館の法的根拠の違い  
大学図書館は大学設置基準、学校図書館は学校図書館法で定められていること
- 大学図書館のサービスについて  
大学図書館では、貸出返却のみならず、参考業務（レファレンス）、相互貸借、文献複写等、研究活動などに沿ったサービスを提供していること
- 本学図書館の基本データについて  
蔵書約25万冊、所蔵雑誌種類約4200タイトル、座席数321席等のこと
- 本学図書館におけるサービスについて  
貸出返却・相互貸借・コピーサービス・電子図書や電子ジャーナルの提供等を行っていること
- コロナ禍に対応した工夫点について  
サーマルカメラや除菌ボックスの設置等の学生に対する安心安全対策及び、遠隔授業支援等の教員に対するサポート等のこと
- 本学図書館における教育活動との連携  
遠隔授業コンテンツ作成支援・遠隔授業受講学生への場の提供及び技術支援・調べ学習の場としての提供・学生や教職員に対する各種イベントの実施等のこと

館内巡回では、一般開架書庫と共に、「貴重本コーナー」や電動書庫等を見ていただきました。研修参加の先生方は、学校図書館にはない電動書庫や貴重本には大いに興味をもっていたようです。

コロナ禍において、教職員研修の機会が減っています。特にこの研修のような勤務地を離れての学外研修は、異校種文化に触れる絶好の機会となり、参加者一人一人の資質能力を高める一助となることは確実です。

今回は高等学校の先生方の研修場所として本図書館を提供できましたが、地域貢献の有効手段として、感染防止対策を十分に行いながら本学図書館から発信できる「よりよい研修方法」を工夫していきたいと考えています。



# あなたのページ

学生からの投稿です

## 「本を読むという事」

経済学部 経営学科2年 近内 美月



突然ですが、皆さんは普段、本を読んでいるでしょうか。時間があれば読むという人とあまり読まないという人に分けられると思います。「本を読まない」というタイプの方が多いのではないでしょうか。

近頃、若者の読書量の低下が著しいと騒がれています。この問題の背景にはやはり、ネットワークの普及や本以外の娯楽の充実が目まぐるしいことなどが影響しているのだと思います。紙媒体や電子書籍に関わらず、視覚化された鮮明な動画情報の方が、若い人たちには受け入れられやすいのです。しかし、読書量の低下が問題視され始めたのは今から40年も前からなのです。そのため、読書量の低下がIT化によるものであるとは一概には言えないという指摘もあります。

では、何故、読書が日常に馴染みのあるものとは言いにくいものとなってしまったのか……。それは「本＝高尚」であるといった見識が若者を中心に定着してしまっていることが考えられるのではないのでしょうか。本を読むことは敷居が高い……。真面目に読まなくてはならない……。正しく読んで読書効率を上げたい……。といった姿勢で本を読もうとする……。それは違うと思います。読書会は真面目でなくてはならないというイメージもありますが、絶対という「読書のルール」は存在しません。

学生の皆さんの中にも、読書に興味がないという方がいらっしゃると思います。そんな方こそ、肩の力を思いっきり抜いて日々のルーティンに「読書」が織り込まれるようになって欲しい……。図書館で仕事をしていて私はこう思います。自分の好きな情報が詰まった本を少しでも目にすれば、日常生活は以前のものよりも一層豊かで彩のあるものになると思います。読書を通して、普段、何気なく目にするものに対する「よりよきフィルター」をたくさん形成して欲しいです。

学生の皆さん。是非、時間を見つけて本学図書館に足を運んでみてください。きっと、貴方だけの特別な本を見つけられると思います。



## 大人が選ぶ 東京くつろぎ散歩 291.36/T より出題

古くから伝わる縁日。東京には、まだまだずいぶん残っています。時代の流れを感じつつも、いくつになっても、参道に連なる(①)、他愛のない夜店の(②)、スピーカーから流れる(③)らには、何か心騒がせるものがあります。また、(④)・植木などの各種の市も、いずれも魅力あふれるものです。売る側と買う側の飾りのない温かいやりとりは、今では貴重な機会ですし、(⑤)に出会えるのも見逃せません。

ほんの散歩がてら、夕暮れのひとときに訪れてみてはいかがでしょうか。

●コロナ禍でなかなか自由な外出ができませんが、「日本人の古くからの楽しみ」に思いをめぐらしていただくと嬉しいです。

図書館の本から出題しています。答えはカウンターにある解答用紙に記入してください。全問正解の方には、記念品を贈呈します。



## 開館カレンダー

2022年1月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					



午前9:00~午後6:00



午前9:00~午後6:45



午前9:00~午後5:00



休館日

引き続き、一般の方のご利用をお断りしています。ご理解の上、ご了承ください。  
新型コロナウイルス感染状況により、開館予定が変更になる場合があります。  
最新の状況については、図書館HPをご確認ください。

~~~~~ 発行・編集 ~~~~~

作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部 図書館

Tel 028-670-3651・3652

Fax 028-670-3619

E-mail tosyo@sakushin-u.ac.jp

URL <http://www.sakushin-u.ac.jp/library/>

